

平成 22 年度

病害虫発生予報第 1 号

平成 22 年 4 月 22 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/boiyosyo/>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	9
5. 今月のトピックス（テントウムシ類について）	10
6. 気象のデータ	11
7. おしらせ	13

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**やや遅**、発生量は**平年並**と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**平年並**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病（温州みかん）、かいよう病（中晩柑類）の発生量は**平年並**、ミカンハダニの発生量は**少**と予想されます。

ナシでは、黒星病、赤星病、ハダニ類、アブラムシ類の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、果樹カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。圃場やその周辺への飛来に注意してください。

3) 茶

チャでは、カンザワハダニ、クワシロカイガラムシの発生量は**平年並**、チャノコカクモンハマキの発生は**やや少**、チャノホソガ、チャノキイロアザミウマの発生は**少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや少**と予想されますが、発生が見られる圃場では注意してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項							
						4月		5月									
						下旬	下旬	中旬	下旬								
イネ	イネミズゾウムシ	やや遅	平年並	小	普通					1) 近年、発生が少ないので、田植え後に発生の状況に応じて防除してください。 2) 常発圃場では箱施用による予防散布を行ってください。							
						コムギ	赤かび病	-	平年並		小	普通					1) 開花始めから開花盛期に予防防除してください。 2) 4月25日頃から約1週間は、低温が続くと予想されており、開花が遅れる可能性があります(4月20日発表・低温に関する異常天候早期警戒情報)。 3) 開花期以後に降雨が続き、気温が高く推移した場合は、多発する可能性があるため、追加防除を行ってください。
													カンキツ	そうか病	-	平年並	
カンキツ	かいよう病	-	(温州) 平年並	小	低					1) 越冬病斑が見られる圃場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防的防除がポイントです。 2) 3~4月に防除を実施していない圃場では、5月に防除を実施してください。							
			(中晩柑) 平年並	中	普通						カンキツ	ミカンハダニ	-	少	小	低	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 昨年の発生が多かった圃場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。
	赤星病	—	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> 1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が飛散して、ナシに感染します。 2) 病原菌は雨中の風によって飛散し、主に降雨中に感染します。
	ハダニ類	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発生が見られる圃場では、低密度のうちに防除してください。
	アブラムシ類	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) アブラムシ類は初期の寄生を見つけることが重要です。 2) 寄生葉付近はアリが活発に活動しているので、アブラムシ発見の目安になります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 本年は越冬量が多いと考えられ、気温の上昇とともに圃場によっては多数飛来する可能性があります。 2) 圃場への飛来に注意してください。特に、昨年秋に多飛来が確認された圃場では注意してください。 3) 果樹カメムシ類は、4月はウメ、5月はナシ、ビワ、モモに飛来します。 4) 防除は圃場及び圃場周辺（街灯への夜間飛来など）への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
			平年比	平年比		程度	平年比	下旬	上旬	
チャ	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通					1) 気温の上昇とともに増加します。発生圃にばらつきがあるので、発生状況を確認して防除してください。 2) 防除する場合は、収穫前日数に注意してください。
	チャノホソガ	—	少	小	低					1) 防除適期は新芽が展開し幼虫が葉裏にいる時期です。
	チャノキイロアザミウマ	—	少	小	低					1) 新芽の裏に産卵します。
	クワシロカイガラムシ	—	平年並	中	普通					1) 防除適期は、孵化最盛期から5～7日後です。 2) 株内の枝や幹に寄生しているので、枝幹を洗い流すように薬剤散布してください。
	チャノコカクモンハマキ	—	やや少	小	低					1) 成長すると葉を2、3枚綴り、葉液がかかりにくくなるので、孵化後の若齢幼虫を対象に防除してください。 2) 防除適期は成虫の発生ピークの7～10日後です。
イチゴ	ハダニ類	—	やや少	小	普通					1) 発生が見られる圃場では、収穫前日数と総使用回数を守り防除してください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや遅	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、4月第6半旬の気温は低い予想（発生時期+） 2) 3月第4半旬から4月第4半旬までの積算気温（津アメダスデータ）は384.5℃日（平年433.8℃日）と低い傾向（発生時期+） 3) 予察灯（松阪市・4月第1半旬～第4半旬）における初飛来日は4月11日（平年4月29日）と早（発生時期-） 4) 巡回調査圃場（昨年8月）では、発生圃場率14.1%（平年11.3%）と多、払い落とし虫数0.3頭（平年1.5頭）と少（±） <p>考察： 今後の気象条件を重視して発生時期はやや遅、また昨年の巡回調査結果から、越冬成虫量および予想発生量は平年並と考えます。</p>
コムギ	赤かび病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、平年と同様に晴れの日が多く、気温は低い予想（-） 2) 一般圃場では、播種時期による圃場間の生育差が大きく、開花時期がばらつく見込み（+） <p>考察： 一般圃場の状況から、開花時期がばらつくことで適期に薬剤防除されない可能性があります、今後の気象条件を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（-） 2) 県予察圃では、4月17日に初発を確認（平年4月19日）（±） 3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、全調査圃場で病斑未確認（旧葉発病度平年0.3）（-） 4) 一般圃場では、発生量は少～並（概してやや少）（-） <p>考察： 現状の発生は平年並に少なく、急増する要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	かいよう病	—	(温州) 平年並 (中晩柑) 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（-） 2) 県予察圃（中晩柑類4月13日）では、越冬病斑の発病葉率は39.6%（平年34.4%）と平年並の傾向（±） 3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、温州みかんでは病斑未確認（旧葉発病度平年0.2）と平年並に少の傾向(±)、中晩柑類では平均旧葉発病度2.4（平年1.7）とやや多の傾向(+)（±） 4) 一般圃場では、発生量はやや少～並（概してやや少）（-） <p>考察： 温州みかんでは平年の発生は少なく、今後増加するとは考えにくいことから、予想発生量は平年並と考えます。中晩柑類では急増する要因はありませんが、4月前半の降雨や強風の影響を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（－）</p> <p>2) 県予察圃（4月14日）では、100葉当寄生虫数は、無防除区0.0頭（平年81.0頭）と少、防除区0.0頭（平年1.2頭）とやや少（－）</p> <p>3) 巡回調査圃場（4月第2週）では、平均旧葉寄生率は3.7%（平年6.2%）と少、発生圃場率は23.1%（平年36.0%）とやや少の傾向（－）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（－）</p> <p>考察： 現状の発生は少と考えられ、急増する要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（－）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、平均発病芽率は0.0%（平年0.0%）と平年並（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概してやや少）（－）</p> <p>考察： 現状の発生は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	赤星病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（±）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、展葉見られず発生は未確認（発病芽率平年0.0%）（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して少）（－）</p> <p>考察： 現状の発生は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（－）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、展葉見られず寄生は未確認（寄生葉率平年0.0%）（±）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並に少（±）</p> <p>考察： 現状の発生は平年並に少なく、大きな増加の要因はないことから、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	アブラムシ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（－）</p> <p>2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、展葉見られず寄生は未確認（寄生枝率平年0.4%）（±）</p> <p>3) 一般圃場では、平年並で多くの圃場で寄生は未確認（±）</p> <p>考察： 現状の発生は未確認圃場が多く平年並と考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯（御浜町 4 月 1 日～10 日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 4 頭（平年 3.0 頭）、ツヤアオカメムシ 15 頭（平年 16.4 頭）といずれも平年並（±） 2) 予察灯（畑・松阪市 4 月 1 日～15 日）では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 0 頭（平年 0.2 頭）、ツヤアオカメムシ 0 頭（平年 0.2 頭）といずれも平年並（±） 3) 県予察圃フェロモントラップ（4 月 2 週）では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地（津市白山町川口）で 5.0 頭（平年 11.0 頭）、中間地（津市白山町二本木）で 0.0 頭（平年 4.6 頭）、平坦地（松阪市嬉野川北町）で 0.0 頭（平年 0.7 頭）とやや少～平年並の傾向（±） 4) チャバネアオカメムシの越冬量は、1 地点当たり 4.8 頭（平年 0.8 頭）と多(+)、クサギカメムシの越冬量は、1 地点当たり 55.5 頭（平年 43.8 頭）とやや多(+）（+） 5) 巡回調査圃場（4 月第 2 週）では、飛来は未確認（-） <p>考察： 現状の予察灯、フェロモントラップへの誘殺数は平年並ですが、越冬量は多いと考えられ、今後の圃場への飛来数の予想発生量はやや多とされます。</p>
	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報（4 月 16 日発表）によると、向こう 1 か月の気温は高くない予想（-） 2) 県予察圃（4 月 10 日）では、寄生葉率は 6.4%（平年 28.8%）と少、1 葉当寄生虫数は 0.16 頭（平年 4.17 頭）と少（-） 3) 巡回調査圃場（4 月第 2 週）では、旧葉寄生率は 6.0%（平年 4.59%）とやや多、1 葉当寄生頭数は 0.12 頭（平均 0.29 頭）とやや少（±） 4) 一般圃場では、発生量はやや多（+） <p>考察： 一般圃場の発生量を重視して、予想発生量は平年並とされます。</p>
	チャノホソガ	—	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 県予察圃フェロモントラップ（4 月第 3 半旬）では、誘殺数は 212 頭（平年 777.5 頭）と少（-） 2) 一般圃場では、発生量は少（-） <p>考察： 増加する要因がないので、第 1 世代幼虫の予想発生量は少とされます。</p>
チャノキイロアザミウマ	—	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 県予察圃（4 月第 1～3 半旬）では、発生量は 70 頭（平年 141.3 頭）と少（-） 2) 巡回調査圃場（4 月第 2 週）では、たたき落とし虫数は 0.1 頭（平年 1.19 頭）と少（-） 3) 一般圃場では、発生量はやや少（-） <p>考察： 増加する要因がないので、第 1 世代幼虫の予想発生量は少とされます。</p>	

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	クワシロカイガラ ムシ	—	平年並	要因 1) 巡回圃場（4月第2週）では、雌成虫寄生株率は7.5%（平年14.3%）と少（－） 2) 一般圃場では、発生量はやや多（＋） 考察： 圃場間のばらつきがありますが、第1世代幼虫の予想発生量は平年並と考えます。
	チャノコカクモン ハマキ	—	やや少	要因 1) 県予察圃フェロモントラップ（4月第1～第3半旬）では、誘殺数は13頭（平年19.3頭）とやや少（－） 考察： 大きな増減要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。
イチゴ	ハダニ類	—	やや少	要因 1) 1か月予報（4月16日発表）によると、向こう1か月の気温は高くない予想（－） 2) 巡回調査圃場（4月第2週）では、寄生株率は11.8%（平年15.5%）とやや少（－） 3) 近年、天敵の導入・利用が定着化（－） 4) 一般圃場では、一部の圃場で発生が認められるが、概して平年並（±） 考察： 圃場によって発生量に差がありますが、予想発生量はやや少と考えます。

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「テントウムシ類について」

1 たくさんのテントウムシ類

日本にテントウムシの仲間はなんと 80 種類ほどもいます。食べ物もいろいろで、特定の植物を加害するものは農業害虫になりますし、アブラムシやカイガラムシを捕食するものは天敵として有用です。農業関係でよく目につくものをあげてみましょう。以下の種類では成虫・幼虫が同じ餌を食べます。

2 ナミテントウ

体長 8mm ほどで、いろいろな模様があります。アブラムシ類を好みますが、他の小さな害虫も食べるようで、野菜や果樹など広範囲な農作物で天敵として重要な役割をはたしています。20～25℃が活動の適温で、春先から初夏にかけてと年によっては秋に活動します。



(上段：模様の変異)

(下段：幼虫・卵、写真は農業研究所提供)

3 ナナホシテントウ

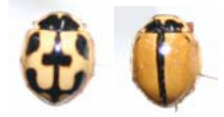
体長 8mm ほど。アブラムシ類を専門に食べます。高いところが苦手なので、もっぱら地表近いところの作物で生活しま



す。春先から晩春にかけてと秋に活動しますが、ナミテントウよりやや低い温度が活動の適温です。一番普通に見られるテントウムシです。

4 ヒメカメノコテントウ

体長 5mm ほどで、模様に二つの型があります。アブラムシ類を専門に食べます。小型のカメムシなので、捕食量は上記 2 種に及びませんが、暑さに強く、施設内や真夏でも



5 ベダリアテントウ

体長 4mm ほど。かんきつ類のイセリヤカイガラの防除のために台湾から導入され、みごとそのカイガラムシを農薬防除しなくてすむほどに激減させました。餌となるカイガラムシが減ったために普段はあまり見かけませんが、地道に活躍しています。



6 ニジュウヤホシテントウ

体長 8mm ほど。重要な害虫です。テントウムシダマシとも呼ばれ、ナスやジャガイモなど露地のナス科作物の葉を網目状にしてしまいます。模様のよく似たナミテントウがいますが、ナミテントウの背中にはツヤツヤ光り、ニジュウヤホシテントウではピロード状です。



6. 気象のデータ

東海地方1か月予報 (平成22年4月16日 名古屋地方気象台発表)

東海地方の向こう1か月は、1週目は天気はぐずつきますが、その後は、天気は概ね数日の周期で変わり、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。2週目を中心に寒気の影響を受ける時期がある見込みです。

1週目 4月17日～23日	気圧の谷や前線の影響で曇りや雨の日が多いですが、期間のはじめに高気圧に覆われて晴れる日もあるでしょう。	晴れ日数の平年値 約4日
2週目 4月24日～4月30日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう。寒気の影響を受ける日もある見込みです。	同 約4日
3～4週目 5月1日～14日	天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多い見込みです。	同 約8日

東海地方週間天気予報 (平成22年4月21日5時 名古屋地方気象台発表)

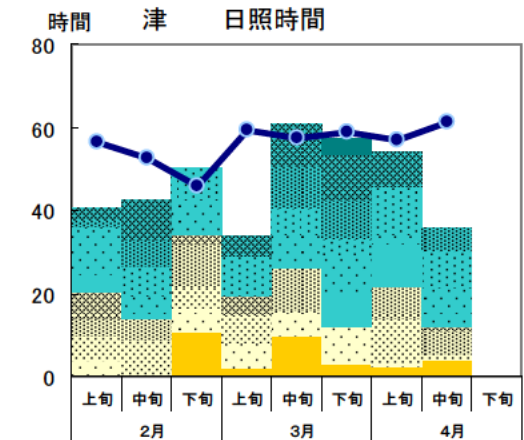
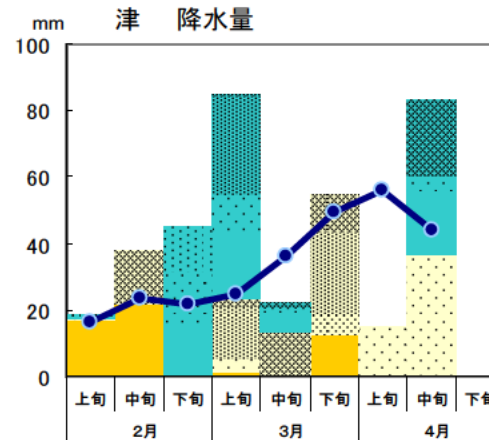
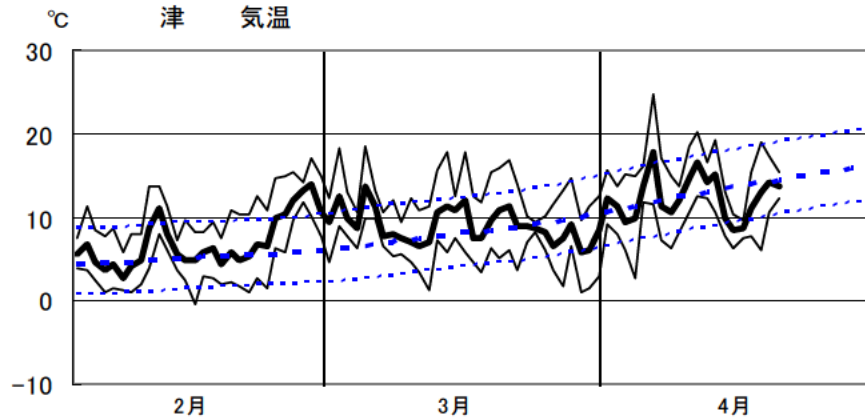
予報期間 4月21日～4月27日

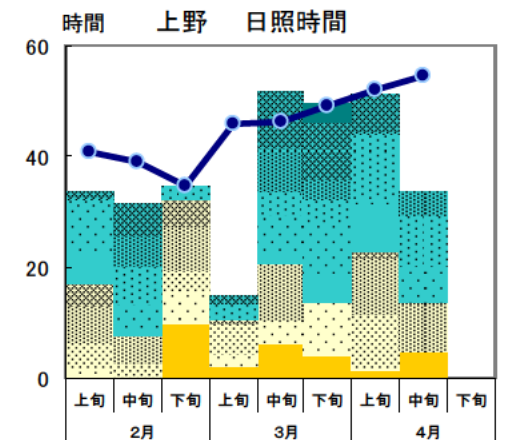
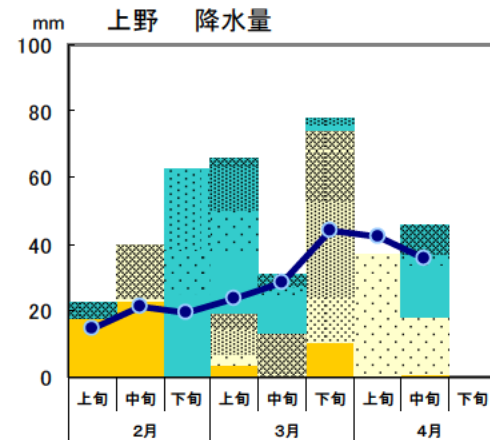
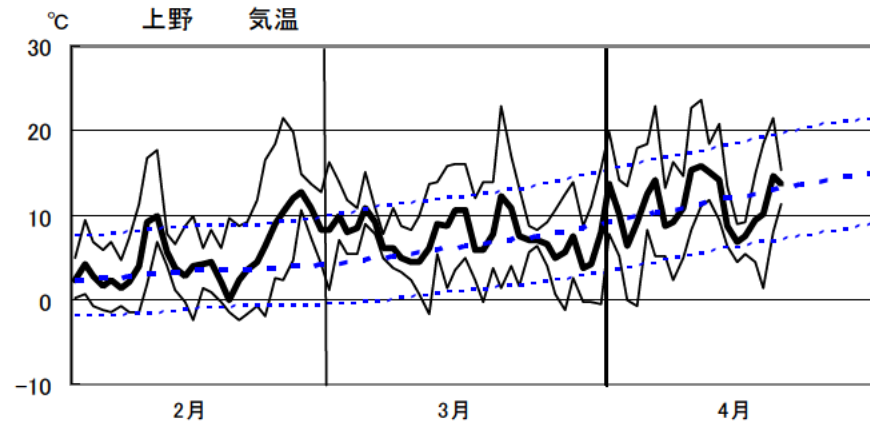
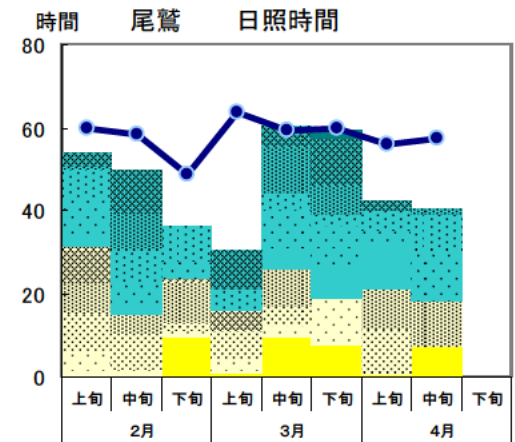
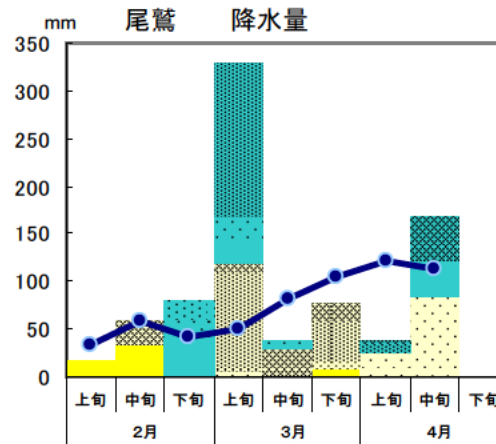
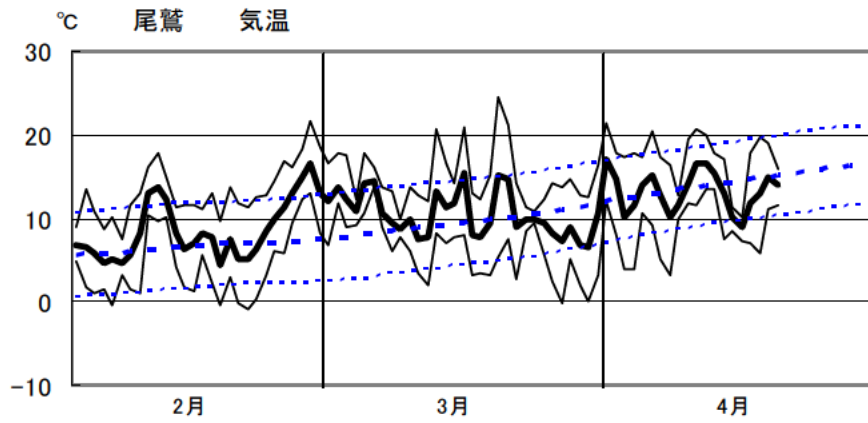
向こう一週間は、期間のはじめと終わりに低気圧や前線の影響により雨の降る日がありますが、期間の中頃は高気圧に覆われて晴れるでしょう。

最高気温と最低気温はともに期間のはじめに平年より高い日がある他は平年より低く、期間の中頃はかなり低いでしょう。

降水量は、平年より多い見込みです。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成) (4月20日まで)





凡例

- 平均
- 最高
- 最低
- - - 平年平均
- - - 平年最高
- - - 平年最低

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

凡例

- 31日
- 旬10日目
- 旬9日目
- 旬8日目
- 旬7日目
- 旬6日目
- 旬5日目
- 旬4日目
- 旬3日目
- 旬2日目
- 旬1日目
- 旬平年値

7. おしらせ

1) 記載基準の注意点

本年度から、平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述します。

2) 発表日

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

- | | |
|---------------|---------------|
| 第1回 4月22日(今回) | 第2回 5月28日(木) |
| 第3回 6月25日(木) | 第4回 7月23日(木) |
| 第5回 8月27日(木) | 第6回 10月22日(木) |
| 第7回 3月18日(木) | |

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h22yohotebiki_.pdf

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>